

三県架橋実現へ向けて「進化と改良」

5月30日の参議院で開かれた国土交通委員会で足立敏之参議院議員が、「三県架橋実現」に向けて発言されました。

概要）昨年10月の「島原・天草・長島架橋構想及び九州西岸軸構想推進地方大会」にも出席いただいた足立敏之参議院議員が「日本は諸外国と比較して交通インフラ網への投資が少なく、暫定2車線の高速道路が全体の約4割にのぼり、各高速道路との連絡道路も不足している。よって輸送コストへの影響や交通渋滞の解消、防災の観点からも、交通インフラへの投資を増やすべき」との国会議論の中で、三県架橋について触れられました。

足立敏之参議院議員



「進化と改良」ネットワークの高度化

足立議員 現在の高速道路ネットワークを補完する機能を高度化するための「進化と改良」が必要ではないかと考える。

現在実施中の名神名阪連絡道路や名神湾岸連絡道路などを結びことにより高速道路ネットワーク機能の高度化を図れる。

ると考える。この視点で全国の高速道路ネットワークを点検するとこのようなニーズがたくさん出てくるのではないかと。

例えば、平成20年3月に中止することになった海峡横断プロジェクトの中でも、今の時点で再検証すれば必要性が見直されるのではないかと。下関北九州道路や九州三県架橋（島原・天草・長島架橋）と

っておりまして、天草と長島を結び架橋とが今の時点できっちり再評価をしてほしい。これらの必要な道路については、有料無料にかかわらず整備を進めて道路ネットワーク全体の機能向上に積極的に取り組むべきであると考えている。

丹羽局長 高速道路ネットワークとともに補完する道路ネットワークの機能強化を図る

丹羽克彦国土交通省道路局長



ことは、地域間の交流の促進や災害時の代替機能の確保の観点から重要であると考えている。

海峡横断プロジェクトについては、湾口部や海峡部を連絡国民のコンセンサスを得る事が重要である。

国土交通省としては、引き続き必要な道路ネットワーク全体の機能強化を着実に進めるとともに、海峡横断プロジェクトについては、さまざまな場面で地域の皆さまの意見を伺い、地域の実情の把握に努めていきたいと考えている。

